



公益財団法人SAJ

# SAJ Farm 通信

## vol.11

### 2011年6月号

公益財団法人  
School Aid Japan  
〒144-0043  
東京都大田区羽田 1-1-3  
TEL: 03-5737-2773  
FAX: 03-5737-2793  
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>  
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 3ヵ年事業計画の決定！！

4月、SAJの理事会・評議員会で、SAJ Farmの2013年度までの事業計画及び予算が住田事務局長より発表され、提案を受けました。これによって、2013年度までに農業技術研修センターを始動させるべく、そこにいたるまでの道筋が決定されたのです。

SAJ Farmでは、食と職を通してカンボジアをより豊かにしていくために、1haという小規模での循環型有機農業の研修を行います。研修生が私たちの農業技術研修センターを卒業後、この循環型有機農業によって、自分の一家族を十分に養っていただけることを目標にします。

この3年後のビジョンに向かって今回の理事会・評議員会で承認された計画を、大まかに年度ごとに説明します。

### ●2011年度 1ha 循環型有機農場の順次稼働

本年度は既に農場の造成工事が進んでおります。予定通り9月には終了する見込みです。これに伴い6月からは、1ha 循環型有機農場を順次稼働すべく、そのインフラ基盤の整備を始めます。具体的には、住居・作業小屋・豚舎・鶏舎が建設されます。

7月には全圃場で田植えが行われ、1ha デモ農場では年に2回のお米作りを試みます。

そして、本年度は「夢追う子どもたちの家」から初のファーマー志望者が2名、私たちと一緒にこの農場で生活を始めます。そのための宿舎兼事務所と炊事場の建設も6月より行います。

また、カンボジアには農業機具や機械が十分にそろっていないことから、除草機や種まき機、それに小型のトラクター等の農業機具・機械を日本から輸入します。

### ●2011年度後半～2012年度 1ha 循環型有機農業の完全稼働

この年度には、1ha 循環型有機農場の中にある全ての分野が本格稼働されます。田んぼは4.5反(4,500㎡)で年に3回のお米作りを行い、2.5反(2,500㎡)の畑では年間にわたって野菜作りが行われます。4つの養殖池では全てナマズが養殖され、鶏舎は満床予定の50羽、豚舎では満床予定の10頭が飼育されます。

それと共に、1ha デモ農場以外の本圃場における田んぼでも2回のお米作りを目指します。本圃場の畑も規模を拡大し、野菜作りを行います。

そして建設関連では、大型倉庫が着工され、他にも本圃場には大型の鶏舎と豚舎が建設されます。

### ●2013年度 1ha 循環型有機農場での有機農業の定着、そして研修開始

この年度には、前2年間の実践を踏まえて、1ha 循環型有機農場での有機農業が完全に定着し、一家族5～6人が十分に生活できるモデルを作り上げます。また研修の開始に向けて、研修生の宿泊施設の建設を行います。

そして、これをもって研修生の受け入れ、研修のスタートの工程に移ります。

以上が今回の定例会で承認され、そして共有された、3ヵ年の事業計画の大まかな流れとなります。この事業計画に沿って、SAJ Farmは前進していきます。

# 「土」と「水」

今、私たちが抱える重大問題が2つあります。それは「土」と「水」です。

土については、これまでもこの Farm 通信でお話させていただいてきたように、SAJ Farm の現在の土は有機物が圧倒的に少ない砂のような土です。

SAJ Farm はカンボジアのコンポンチュナン州という場所にあります。実はこの州は、カンボジアの中で4本の指に入る貧しい州です。その原因はこの「土」にあります。

このカンボジアにおける土の実情を調べるために5月12日、私たちスタッフはコンポンチャム州にある農場に視察に行きました。コンポンチャム州は、特別市であるプノンペン等を除いて、カンボジアにおいてバタンバン州と並ぶ裕福な州です。このコンポンチャム州の農場の「土」は茶色でフカフカしており、素人目にも生命力にとんだ栄養豊かな土であることが分かります。

地方人口の90%が農場従事者といわれるこの国カンボジアでは、この「土」の力が、農業生産力の差となって現れ、またそれはその地域の豊かさに直結しているのです。

この富める地域と、貧しい地域を分けてしまうほどに重要な「土」。これを育てていくことが重要問題の一つです。

そしてもう一つの問題が地下からの「水」の供給についての問題です。問題となっているのは、井戸からの水の供給量の少なさです。これは、乾季というほとんど雨が降らない時期が半年も続くカンボジアにおいては深刻な問題となります。

当初私たちはこの SAJ Farm の土地は井戸を掘れば、すぐに大量の水が出てくる場所だと思っていました。農場から1kmほど離れたところには、乾季になってもまったく涸れることのない大きな湖があり、なによりもこの農場の一部に既に池のように3mほど掘られた場所があり、そこには乾季の中ごろにもかかわらず水が染み出ており溜まっていたからです。

しかしながら、いざ井戸の建設を業者に依頼し採掘作業を行ってみると十分な水が確保されません。井戸建設業者の話から、地下15mほどから岩盤があり、それが地下深くまで続いているということが分かりました。

結局、この業者は深さ30mの井戸を3本掘り、1本のみ1時間あたり2,000リットルという十分な供給量ではない水量を確保しただけで、もうこれ以上は工事を続けることが出来ないということになったので、話し合いを行い契約を終了しました。

その後、新たに業者を選定し再度井戸の採掘を行いました。しかし、この業者は井戸を1本、50m掘ったところで水が出ないと判断し、あきらめて勝手に帰ってしまいました。その水量は、1時間あたり1,500リットルでした。これでは、普通の家族が生活するには十分ですが農場用水としては足りません。ちなみに「夢追う子どもたちの家」の井戸の水の供給量は1時間あたり4~6,000リットルです。

現在、3社目の業者と話し合いを行い、何とか2~3,000リットルの水量が確保できるまで工事を続けてもらえるよう契約を進めています。

「土」と「水」、農業を行うにあたって、風土・気候と並ぶ重大な要素に不安を抱えています。しかしながら、ないものを嘆いても現実は変わりません。豊かな「土」でないのであれば、毎年堆肥を入れて少しずつ生命力のある土を育てていけばよいのだし、地下からの水が十分確保できなければこの国の年間の風土・気候のサイクルに合わせた農業を行えばいいのです。

こういったさまざまな制約条件がある中で、しっかりとした足腰の強い農場を築いてこそ、この国の貧しい地域での農業を変えていくことが出来ると考えます。



豊かさを生むコンポンチャム州の「土」

## 編集後記

事実の一つ、解釈の仕方は幾千、幾万です。目の前にある一つの事実をどう捉えるか。

自分の心が思ったように道は進みます。悪しと思えば悪く、良しと思えば良く進みます。

五月女